

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 9 日現在

機関番号：82606

研究種目：挑戦的研究(萌芽)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K19867

研究課題名(和文)がん患者の信頼感に及ぼす医師の面談行動の作用機序解明に関する研究

研究課題名(英文)Physician's behaviors and cancer patient's trust

研究代表者

内富 庸介(Yosuke, UCHITOMI)

国立研究開発法人国立がん研究センター・中央病院・部門長

研究者番号：60243565

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、がん告知の面談場面中におけるがん検診受診者の情動反応およびその際の医師の共感的対心を、認知的側面および生理的側面から測定し、医療者と患者との情動的反応の相互作用機序の解明を目的とした。対象は国立がん研究センター検診センターで面談を受けたがんの可能性が低い判定群48名と、がんの可能性が高い判定群(9名)の受診者とした。解析の結果、がんの可能性の低い群では面談前に比べ、面談後、不安感が軽減したが、がんの可能性の高い群では有意な低減は認められなかった、またがんの可能性の高い群では、面談前後の不安の高さと医師への共感性の高さに相関があり、さらに心拍数の変化とも相関があることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

がん検診の結果は今後の健康、生活などQOLに大きく影響することから、面談前、多くの受診者は高い不安感を持ちながら面談に臨んでいた。がんの可能性の低い判定群で面談後、不安が低減したのは、医師からがん検診の説明を聞いたことにより当初の高い不安感が取り除かれたと考えられる。一方、がんの可能性の高い判定群では、不安が軽減した者、さらに増加した者など様々であった。これはがんの種別、検診結果の受け止め方、今後の治療と向き合い方が受診者一人一人で異なることが反映されたと考えられる。

研究成果の概要(英文)：We have investigated whether empathetic behavior of examinees are associated with heart rate, The consultation and relational empathy (CARE), and State-Trait Anxiety Inventory (STAI). Participants were 57 examinees who are interviewed in National Cancer Hospital. Heart rate of participants had been measured by wearable bio-sensing device among interview. As a result of analysis of high risk group for cancer, there was correlation between empathy for doctors and anxiety. And there was correlation between anxiety and heart rate.

研究分野：精神腫瘍学、神経科学、精神医学

キーワード：社会医学 神経科学 情報工学

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

重要な面談においてがん患者は医師に対して共感的対応(例えば、患者の感情を受け止める言葉かけ、十分な沈黙を置くなど)を求めている(Fujimori & Uchitomi, 2009)。一方で、医療者はがんや認知症といった進行致死性疾患といった真実を伝える際に患者やその家族に対して医学的に重要な情報を提供しなければならず、同時に情動的サポートとなる「共感」を提供するという複雑なコミュニケーション技術に乏しさを感じ、大きな負担感を抱えている(Fujimori, 2003)。技術が乏しいと患者の精神的ストレスに負の影響があり(Uchitomi et al., 2001)。さらに、がん告知後の自殺率の高さは社会的問題であることから(Yamauchi et al., 2014)対策が求められているが、少子高齢化社会を迎え、限られた医療者が多くの患者に寄り添うことには限界がある。「共感」とは、他者の考えや感情を洞察するために観察、記憶、知識、推理などを統合させた複雑な推論であり(Baron-Cohen, 2001)共感行動は、先行研究において視線、語調、距離、姿勢の側面から検討されている(McHenry, 2012)。いずれもその質や量の適切さは場面特異的であり(例えば、アイコンタクトは向社会的な行動である一方で、説得場面では敵対と捉えられる)(Chen, 2013)患者-医療者間のコミュニケーション場面における共感的対応を示す明確な行動指標は示されていない。これまでの研究により、医師に対する悪い知らせを伝えるコミュニケーション技術学習プログラムを開発して(講義、模擬演習、相互討論で構成)無作為化比較試験を行い、国際的に標準化された第三者によるビデオ行動評価システムを用いた行動分析(例えば、「大丈夫ですか」と声をかけていれば「他者の感情を受け止める」言動に当てはまると評価)により共感的対応が学習可能であること、さらに患者のストレスを軽減すること、医師への信頼感が上がる実証されている。(Fujimori, 2014)。第三者評価とはいえ、あらゆる言動の定義には限界があり、その相互作用機序解明には十分ではない。医療者の共感的対応の作用機序が解明されることで、奏効要素を強化する共感行動獲得のための新たな研修法の開発が可能となる。

2. 研究の目的

先行研究として、不確実性の高い予後告知場面においてアイコンタクト、用いる言葉を変えた複数のビデオを乳がん患者に提示し、各ビデオ視聴後に主観的な評価を求めた結果、アイコンタクトを保つことではっきりと予後伝えても不安を惹起することはなく、不確実感は大きく軽減し、医師への信頼感、医師の共感性の評価が非常に高いことを実験心理学的に示されている(Fujimori et al., 2018; Mori, Fujimori et al., 2019)。しかし実際の臨床場面においては実証されていない、そこで本研究では、第三者行動評価、ビデオ課題評価から一歩進めて、がん告知時の情動反応への医療者の共感的対応による不安軽減効果の相互作用機序の解明を目的として、がん告知の面談場面中のがん検診受診者の情動反応、およびその際の医師の共感的対応を認知的側面として不安・抑うつ反応を、生理的側面とし手脈拍数を測定し、その関連を検討した。

3. 研究の方法

【対象】

国立がん研究センター中央病院検診センターにおいて医師の面談を受けた受診者、男性 32 名、女性 25 名の計 57 名(平均年齢 64 歳)を対象とした。研究協力者には、面談に係る事前の書類送付の際に研究の説明資料を同封し、研究説明への同意が得られたものに対して面談前に研究説明を行い、書面と口頭で研究参加への同意を得た。

【評価手順】

面談前、質問紙への回答を求め、研究参加者、医師両者の非利き腕に軽量の腕時計様センサー(E4 wristband, empati ca 社)を装着し、生体信号の計測を開始する。面談中の研究参加者、医師両

者の表情、発話をビデオカメラで撮影した。面談終了後、質問紙への回答を求めた。本研究に先立ち、国立がん研究センターの倫理審査を受け、中央病院長の承認を得た。

【評価項目】

- ・ 脈拍数 : (empatica社製E4 wristband)
- ・ 抑うつ : Patient Health Questionnaire 9 (PHQ-9)
- ・ 不安 : Generalized Anxiety Disorder 7 (GAD-7) State-Trait Anxiety Inventory (STAI) -State
- ・ 共感性 : 医師 Jefferson Scale of Patient's Perception of Physician Empathy (JSPPE) The consultation and relational empathy (CARE) 研究参加者 Interpersonal Reactivity Index (IRI)
- ・ 社会的背景 : 年齢、性別、教育年数、婚姻状況、家族構成、ソーシャルサポート、身近な人のがんの経験、同席者の有無、疾病の既往、内服薬

【解析方法】

抑うつ、不安、共感性、社会的背景は記述統計量(平均値、標準偏差、95%信頼区間)を算出した。検診の結果、がんの可能性が低い判定 2-3 の群と高い判定 4-5 の群間の平均値を比較、t 検定により検定し、有意水準は両側 5%とした。

脈拍は empatica 社クラウドプラットフォームから実験で計測した生体情報をダウンロードし、面談直前及び面談直後の脈拍数を算出した。今回、脈拍数と STAI スコア相関分析を行った。

4 . 研究成果

【結果】

参加者の内訳は、検診の結果、がんの可能性が低い判定 2-3 の群 (48 名) と、がんの可能性の判定 4-5 の群 (9 名) であった。

Table 1. Examinee characteristics

	Screening result 2 or 3 (n = 48)		Screening result 4 or 5 (n = 9)	
	mean	S.D.	mean	S.D.
Age, years	61	10.84	67	9.68
	N	%	N	%
Male sex	28	59.57	4	44.44
Married	38	80.85	8	88.89

不安の指標である GAD-7、抑うつの指標である PHQ-9 のスコアは、判定 4-5 群の方が高い傾向にあるものの、有意な差は認めなかった。また医師への共感性の指標となる JSPPE と CARE も判定 4-判定 5 群の方が高い傾向にあるものの、有意な差は認めなかった。

Table 2. GAD-7, PHQ-9, JSPPE, CARE means and standard deviations

	Screening result 2 or 3 (n = 48)		Screening result 4 or 5 (n = 9)	
	mean	S.D.	mean	S.D.
GAD-7	2.25	3.74	3.89	4.11
PHQ -9	2.96	4.01	4.44	3.43
JSPPE	25.33	5.52	22.33	7.02
CARE	38.44	8.45	35.11	12.66

状態不安とは、特定の時点、状況により変化してゆく一時的な不安反応であり、STAI (A-State) により状態不安を自己評定することができる。面談前の STAI スコアは、判定 2-3 群(平均値 38.08、標準偏差 10.44)と比較して、判定 4-5 群(平均値 53.88、標準偏差 10.40)が有意に高値であった。また面談後の STAI スコアも判定 2-判定 3 群(平均値 32.54、標準偏差 8.57)と比較して、判定 4-5 群(平均値 44.75、標準偏差 16.59)が有意に高値であった。一方、面談前後で比較した場合、判定 2-3 群は面談前に比べ面談後は有意に低値であった。一方、判定 4-5 群は面談前と面談後で有意な差異は認められなかった。

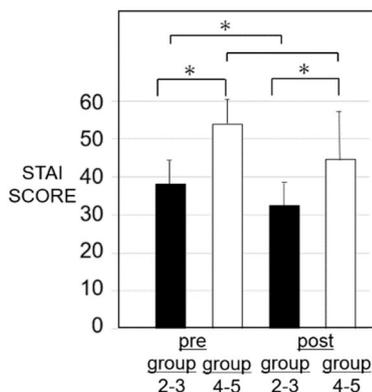


Figure 1. STAI means for screening result 2-3 group and 4-5 group at pre or post interview * $p < 0.05$

面談前と面談後の STAI スコアの変化と医師への共感性の指標である CARE の相関性を検討した結果、判定 4-5 群では、STAI スコアの変化と CARE の間に弱い相関がみられた ($r = 0.35$)。一方、判定 2-3 群では相関は見られなかった。

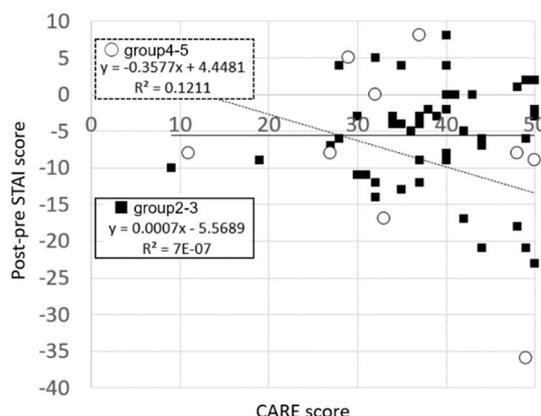


Figure 2. Correlation of CARE score and STAI

面談前と面談後の STAI スコアの変化と心拍数の変化に関して、相関性を検討した結果、判定 4-5 群では、STAI スコアの変化と心拍数変化の間に弱い相関がみられた ($r = 0.50$)。一方、判定 2-3 群では相関は見られなかった。

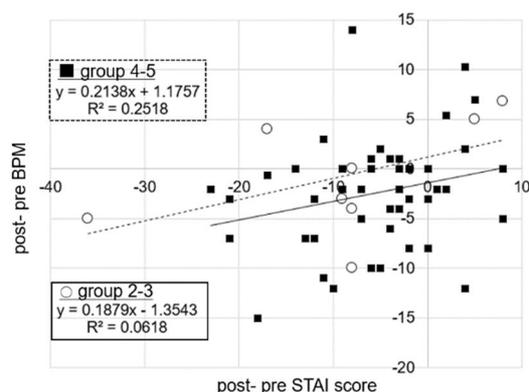


Figure 3. Correlation of STAI score and Heart rate

【考察】

がん検診の結果、がんの可能性が高い結果を告げられることは、自らの生命、健康、生活への脅威として大きな精神的ストレスとして影響し、高い不安を示した。また判定2-3群のがんの可能性が低い受診者では面談前と比べて、面談後の不安が低減していた。これは面談前、高い不安感をもっていたものが、面談により医師から説明を聞き、当初の高い不安感が取り除かれたと考えられる。一方、判定4-5群のがんの可能性が高い受診者では、面談前後で、不安が軽減した者、さらに増加した者など様々であった。これはがんの種別、検診結果の受け止め方、今後の治療と向き合い方が受診者一人一人で異なることが反映されたと考えられる。脈拍数は、運動に伴う心肺活動の活性化だけでなく、交感神経、副交感神経の自律神経依存的にも変動し、不安、ストレスが高い状態では脈拍数が高いことが知られている。本研究でも、面談前から面談後にかけて不安が軽減していく過程で、脈拍数も減少してゆくことが認められ、質問紙による精神的指標と生理的指標が一致した挙動を確認することができた。さらに、面談前後の不安の増減には医師の共感的対応が不安軽減に関係することが示唆された。今後、本研究の成果の実際の医療現場への実装を想定した場合、医療者は、質問紙回答や脈拍を指標に受診者の不安を認識することにより、視線、語調、距離、姿勢など共感行動を変え、より円滑なコミュニケーションをとることが可能だと考えられる。しかしながら、実際は、受診者ひとりひとりに対して、面談前後に質問紙の回答を得て集計し、また接触型のデバイスを装着して生体データを取得することは、時間的にも労力的にも不安が大きく現実的でない。本研究を発展的に検討し、医療現場への社会実装を実現するためには、例えば、近年、報告されているビデオカメラを用いて顔画像から脈拍を読み取る非接触で取り扱いが容易なセンシング技術 (Park et al., IEEE, 2015) など、動画解析により受診者への負担や準備時間を必要としないシステムの開発、実用化が望まれる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計29件（うち査読付論文 29件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Matsuda Y, Tanimukai H, Inoue S, Inada S, Sugano K, Hasuo H, Yoshimura M, Wada S, Dotani C, Adachi H, Okamoto Y, Takeuchi M, Fujisawa D, Kako J, Sasaki C, Kishi Y, Akizuki N, Inagaki M, Uchitomi Y, Matsushima E, Okuyama T.	4. 巻 5;50(5)
2. 論文標題 JPOS/JASCC clinical guidelines for delirium in adult cancer patients: a summary of recommendation statements.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Jpn J Clin Oncol.	6. 最初と最後の頁 586-593
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1093/jjco/hyaa003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Hashimoto H, Abe M, Tokuyama O, Mizutani H, Uchitomi Y, Yamaguchi T, Hoshina Y, Sakata Y, Takahashi TY, Nakashima K, Nakao M, Takei D, Zenda S, Mizukami K, Iwasa S, Sakurai M, Yamamoto N, Ohe Y.	4. 巻 21(2)
2. 論文標題 Olanzapine 5 mg plus standard antiemetic therapy for the prevention of chemotherapy-induced nausea and vomiting (J-FORCE): a multicentre, randomised, double-blind, placebo-controlled, phase 3 trial.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Lancet Oncol.	6. 最初と最後の頁 242-249
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/S1470-2045(19)30678-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Matsuoka YJ, Okubo R, Shimizu Y, Tsuji K, Narisawa T, Sasaki J, Sasai H, Akashi-Tanaka S, Hamaguchi T, Iwasa T, Iwata S, Kato T, Kurotani K, Maruyama D, Mori A, Ogawa A, Sakurai N, Shimazu T, Shimizu C, Tabuchi T, Takahashi M, Takano T, Tatematsu N, Uchitomi Y, Watanabe C, Fukui T.	4. 巻 14
2. 論文標題 Developing the structure of Japan's cancer survivorship guidelines using an expert panel and modified Delphi method.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 J Cancer Surviv.	6. 最初と最後の頁 273-283
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s11764-019-00840-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Higuchi Y, Fujiwara M, Nakaya N, Fujimori M, Hayashibara C, So R, Shinkawa I, Sato K, Yada Y, Kodama M, Takenaka H, Kishi Y, Kakeda K, Uchitomi Y, Yamada N, Inagaki M.	4. 巻 21;19(1)
2. 論文標題 Change in smoking cessation stage over 1year in patients with schizophrenia: a follow up study in Japan.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BMC Psychiatry.	6. 最初と最後の頁 367
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12888-019-2351-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujiwara M, Inagaki M, Shimazu T, Kodama M, So R, Matsushita T, Yoshimura Y, Horii S, Fujimori M, Takahashi H, Nakaya N, Kakeda K, Miyaji T, Hinotsu S, Harada K, Okada H, Uchitomi Y, Yamada N.	4. 巻 9(11)
2. 論文標題 A randomised controlled trial of a case management approach to encourage participation in colorectal cancer screening for people with schizophrenia in psychiatric outpatient clinics: study protocol for the J-SUPPORT 1901 (ACCESS) study.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BMJ Open.	6. 最初と最後の頁 e032955
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjopen-2019-032955	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Harashima S, Fujimori M, Akechi T, Matsuda T, Saika K, Hasegawa T, Inoue K, Yoshiuchi K, Miyashiro I, Uchitomi Y, Matsuoka YJ.	4. 巻 9(7)
2. 論文標題 Suicide, other externally caused injuries and cardiovascular death following a cancer diagnosis: study protocol for a nationwide population-based study in Japan (J-SUPPORT 1902).	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BMJ Open.	6. 最初と最後の頁 e030681
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjopen-2019-030681	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mori M, Fujimori M, van Vliet LM, Yamaguchi T, Shimizu C, Kinoshita T, Morishita-Kawahara M, Inoue A, Inoguchi H, Matsuoka Y, Bruera E, Morita T, Uchitomi Y.	4. 巻 125(19)
2. 論文標題 Explicit prognostic disclosure to Asian women with breast cancer: A randomized, scripted video-vignette study (J-SUPPORT1601).	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Cancer	6. 最初と最後の頁 3320-3329
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/cncr.32327	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Okubo R, Wada S, Shimizu Y, Tsuji K, Hanai A, Imai K, Uchitomi Y, Fujiwara Y, Tsugane S, Matsuoka YJ.	4. 巻 1:49(9)
2. 論文標題 Expectations of and recommendations for a cancer survivorship guideline in Japan: a literature review of guidelines for cancer survivorship.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Jpn J Clin Oncol.	6. 最初と最後の頁 812-822
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/jjco/hyz070	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mori M, Fujimori M, Ishiki H, Nishi T, Hamano J, Otani H, Ueno Y, Oba A, Morita T, Uchitomi Y.	4. 巻 57(6)
2. 論文標題 The Effects of Adding Reassurance Statements: Cancer Patients' Preferences for Phrases in End-of-Life Discussions.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 J Pain Symptom Manage.	6. 最初と最後の頁 1121-1129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1634/theoncologist.2018-0643	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Wada S, Sadahiro R, Matsuoka YJ, Uchitomi Y, Yamaguchi T, Shimizu K.	4. 巻 8:20(1)
2. 論文標題 Yokukansan for perioperative psychiatric symptoms in cancer patients undergoing high invasive surgery.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Trials.	6. 最初と最後の頁 110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s13063-019-3202-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mori M, Fujimori M, Ishiki H, Nishi T, Hamano J, Otani H, Ueno Y, Oba A, Morita T, Uchitomi Y.	4. 巻 24(9)
2. 論文標題 Adding a Wider Range and "Hope for the Best, and Prepare for the Worst" Statement: Preferences of Patients with Cancer for Prognostic Communication.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Oncologist	6. 最初と最後の頁 e943-e952
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1634/theoncologist.2018-0643	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shibayama O, Yoshiuchi K, Inagaki M, Matsuoka Y, Yoshikawa E, Sugawara Y, Akechi T, Wada N, Imoto S, Murakami K, Ogawa A, Uchitomi Y.	4. 巻 24(1)
2. 論文標題 Long-term influence of adjuvant breast radiotherapy on cognitive function in breast cancer patients treated with conservation therapy.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Int J Clin Oncol.	6. 最初と最後の頁 68-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10147-018-1330-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Wada S, Inoguchi H, Sadahiro R, Matsuoka YJ, Uchitomi Y, Sato T, Shimada K, Yoshimoto S, Daiko H, Shimizu K.	4. 巻 43(1)
2. 論文標題 Preoperative Anxiety as a Predictor of Delirium in Cancer Patients: A Prospective Observational Cohort Study.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 World J Surg.	6. 最初と最後の頁 134-142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00268-018-4761-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akechi T, Yamaguchi T, Uchida M, Imai F, Momino K, Katsuki F, Sakurai N, Miyaji T, Horikoshi M, Furukawa TA, Iwata H, Uchitomi Y.	4. 巻 8(11)
2. 論文標題 Smartphone problem-solving and behavioural activation therapy to reduce fear of recurrence among patients with breast cancer (SMartphone Intervention to LEssen fear of cancer recurrence: SMILE project): protocol for a randomised controlled trial.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 BMJ Open.	6. 最初と最後の頁 e024794
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjopen-2018-024794	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Zenda S, Yamaguchi T, Yokota T, Miyaji T, Mashiko T, Tanaka M, Yonemura M, Takeno M, Okano T, Kawasaki T, Nakamori Y, Ishii S, Shimada S, Kanamaru M, Uchitomi Y.	4. 巻 18(1)
2. 論文標題 Topical steroid versus placebo for the prevention of radiation dermatitis in head and neck cancer patients receiving chemoradiotherapy: the study protocol of J-SUPPORT 1602 (TOPICS study), a randomized double-blinded phase 3 trial.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 BMC Cancer.	6. 最初と最後の頁 873
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12885-018-4763-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamada Y, Fujimori M, Shirai Y, Ninomiya H, Oka T, Uchitomi Y.	4. 巻 93(12)
2. 論文標題 Changes in Physicians' Intrapersonal Empathy After a Communication Skills Training in Japan.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Changes in Physicians' Intrapersonal Empathy After a Communication Skills Training in Japan. Acad Med.	6. 最初と最後の頁 1821-1826
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/ACM.0000000000002426	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hashimoto H, Abe M, Yanai T, Yamaguchi T, Zenda S, Uchitomi Y, Fukuda H, Mori M, Iwasa S, Yamamoto N, Ohe Y.	4. 巻 48(10)
2. 論文標題 Study protocol for J-SUPPORT 1604 (J-FORCE): a randomized, double blind, placebo-controlled Phase III study evaluating olanzapine (5 mg) plus standard triple antiemetic therapy for prevention of chemotherapy induced nausea and vomiting in patients receiving cisplatin-based highly emetogenic chemotherapy.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Jpn J Clin Oncol.	6. 最初と最後の頁 950-952
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/jjco/hyy114	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujiwara M, Inagaki M, Nakaya N, Fujimori M, Higuchi Y, Kakeda K, Uchitomi Y, Yamada N.	4. 巻 124(3)
2. 論文標題 Association between serious psychological distress and nonparticipation in cancer screening and the modifying effect of socioeconomic status: Analysis of anonymized data from a national cross-sectional survey in Japan.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Cancer.	6. 最初と最後の頁 555-562
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/cncr.31086	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kako J, Morita T, Yamaguchi T, Sekimoto A, Kobayashi M, Kinoshita H, Ogawa A, Zenda S, Uchitomi Y, Inoguchi H, Matsushima E.	4. 巻 35(2)
2. 論文標題 Evaluation of the Appropriate Washout Period Following Fan Therapy for Dyspnea in Patients With Advanced Cancer: A Pilot Study.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Am J Hosp Palliat Care.	6. 最初と最後の頁 293-296.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/1049909117707905	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kako J, Morita T, Yamaguchi T, Kobayashi M, Sekimoto A, Kinoshita H, Ogawa A, Zenda S, Uchitomi Y, Inoguchi H, Matsushima E.	4. 巻 56(4)
2. 論文標題 Fan Therapy Is Effective in Relieving Dyspnea in Patients With Terminally Ill Cancer: A Parallel-Arm, Randomized Controlled Trial.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 J Pain Symptom Manage.	6. 最初と最後の頁 493-500
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jpainsymman.2018.07.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujiwara M, Inagaki M, Nakaya N, Fujimori M, Higuchi Y, Kakeda K, Uchitomi Y, Yamada N.	4. 巻 239
2. 論文標題 Smoking among adults with serious psychological distress: Analysis of anonymized data from a national cross-sectional survey in Japan.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 J Affect Disord.	6. 最初と最後の頁 131-137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jad.2018.07.008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hamano J, Morita T, Mori M, Uchitomi Y.	4. 巻 56(3)
2. 論文標題 Talking About Palliative Sedation With the Family: Informed Consent vs. Assent and a Better Framework for Explaining Potential Risks.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 J Pain Symptom Manage.	6. 最初と最後の頁 e5-e8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jpainsymman.2018.05.004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 nagaki M, Fujiwara M, Nakaya N, Fujimori M, Higuchi Y, Hayashibara C, So R, Kakeda K, Kodama M, Uchitomi Y, Yamada N.	4. 巻 244(3)
2. 論文標題 Low Cancer Screening Rates among Japanese People with Schizophrenia: A Cross-Sectional Study.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Tohoku J Exp Med.	6. 最初と最後の頁 209-218
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1620/tjem.244.209	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ishida M, Onishi H, Morita T, Uchitomi Y, Shimizu M, Tsuneto S, Shima Y, Miyashita M.	4. 巻 55(4)
2. 論文標題 Communication Disparity Between the Bereaved and Others: What Hurts Them and What Is Unhelpful? A Nationwide Study of the Cancer Bereaved.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 J Pain Symptom Manage.	6. 最初と最後の頁 e1242
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 0.1016/j.jpainsymman.2017	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsuoka YJ, Sawada N, Mimura M, Shikimoto R, Nozaki S, Hamazaki K, Uchitomi Y, Tsugane S.	4. 巻 7(9)
2. 論文標題 Dietary fish, n-3 polyunsaturated fatty acid consumption, and depression risk in Japan: a population-based prospective cohort study.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Transl Psychiatry.	6. 最初と最後の頁 e1242
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/tp.2017.206	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujiwara M, Inagaki M, Nakaya N, Fujimori M, Higuchi Y, Hayashibara C, So R, Kakeda K, Kodama M, Uchitomi Y, Yamada N.	4. 巻 71(12)
2. 論文標題 Cancer screening participation in schizophrenic outpatients and the influence of their functional disability on the screening rate: A cross-sectional study in Japan.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Psychiatry Clin Neurosci.	6. 最初と最後の頁 813-825
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.12554	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Higuchi Y, Inagaki M, Koyama T, Kitamura Y, Sendo T, Fujimori M, Kataoka H, Hayashibara C, Uchitomi Y, Yamada N.	4. 巻 81(4)
2. 論文標題 Emotional Intelligence and its Effect on Pharmacists and Pharmacy Students with Autistic-like Traits.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Am J Pharm Educ.	6. 最初と最後の頁 74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5688/ajpe81474	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Wada S, Inoguchi H, Hirayama T, Matsuoka YJ, Uchitomi Y, Ochiai H, Tsukamoto S, Shida D, Kanemitsu Y, Shimizu K.	4. 巻 47(9)
2. 論文標題 Yokukansan for the treatment of preoperative anxiety and postoperative delirium in colorectal cancer patients: a retrospective study.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Jpn J Clin Oncol.	6. 最初と最後の頁 844-848
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s13063-019-3202-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujimori M, Akechi T, Uchitomi Y.	4. 巻 15(3)
2. 論文標題 Factors associated with patient preferences for communication of bad news.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Palliat Support Care.	6. 最初と最後の頁 328-335
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.1017/S147895151600078X	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 内富庸介
2. 発表標題 エビデンスに基づくコミュニケーション:心の声を聴く
3. 学会等名 第24回日本緩和医療学会学術大会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 内富庸介
2. 発表標題 がん予防から終末期におけるコミュニケーションスキル
3. 学会等名 第57回日本癌治療学会学術集会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 内富庸介・塩飽哲生・藤森麻衣子
2. 発表標題 オンライン通話システムを使ったがん患者の「心のケア」拡大の可能性について
3. 学会等名 第32回日本サイコオンコロジー学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤森麻衣子
2. 発表標題 会長企画シンポジウム「コミュニケーション・スキルを科学する」
3. 学会等名 第57回日本癌治療学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤森麻衣子
2. 発表標題 会長企画シンポジウム「サイコオンコロジー：がん治療の進歩によって患者・医療者間のコミュニケーションは変化したのか」
3. 学会等名 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	藤森 麻衣子 (FUJIMORI MAIKO) (40450572)	国立研究開発法人国立がん研究センター・社会と健康研究センター・室長 (82606)	